

村上茂樹院長が「専門医3冠」取得

眼科医学、東洋医学に続き、新たな抗加齢医学も 眼科医として史上初、全国で唯一人の快挙



「元氣な長寿」めざす

本紙連載、ワンポイント

アドバイス「眼のはなし」で
お馴染みの宇土市南段原町・
むらかみ眼科クリニックの

村上茂樹院長(医学博士)の
写真)が、このほど、日本抗
加齢医学会から専門医とし

て認定され、これまでの日
本眼科学会認定専門医、日
本東洋医学会認定専門医と

合わせ「専門医3冠」を取
得した。3冠達成は眼科医と
して史上初で、全国で唯一

人という快挙。
抗加齢医学とは聞き慣れ
ない言葉だが、端的に言え

ば「老化を防ぎ、元氣な長
寿をめざす実践的医学」。歴
史はまだ浅く、14年前の19

92年、アメリカで誕生。日
本での同医学会の設立は2
000年で、今年が6年目。

総会は既に5回開かれてい
たが、昨年初めて専門医の
認定試験が行われた。その

結果、全国で228名(九州
では20名)、うち眼科医は21

名(九州では3名)が合格、
今年1月1日付で認定書が
交付された。
「抗加齢医学」とは？
人は誰でも年齢とともに
老化が進む。心身が古い、病
気がちとなり、活動も低下
する。抗加齢医学は、そうし
た加齢による老化のメカニ
ズムを解明したり、予防し
たり、老化の進行を遅らせ
たりと、障害を少しでも食
い止めたり、回復させる方
法を科学的に研究し、「元氣
で長寿」を実現するための
新しい学問体系である。

医学の主目的は病気治療
にあつて、「早期発見、早期
治療」といわれるが、抗加
齢医療は、生活習慣病をは
じめとするいろいろな疾患を
予防し、ストレスや疲労、免
疫低下などの疾病発生の促
進因子を改善して、健康長
寿をめざすというものだ。
老化の原因としては、遺
伝子、活性酸素、免疫力、ホ
ルモンをはじめ様々な因子
があるが、実際には複数の
因子が重なって徐々に老化
を進めるといわれる。

従つて、健康長寿を実現
するにあつては、遺伝子
や細胞レベルから幅広く、
生化学、生理学、臨床医学な
どの医学系にとどまらず、
化学、物理学、農学、薬学と
広範囲の分野にわたつてい
これらの研究を利用した
抗加齢への実践は、栄養学、
内分泌学を用いた補充療法
と運動や休養などの生活習
慣の改善によつて可能とな
る、とされている。

つまりは、免疫やホルモ
ンなどが加齢によつて低下
した場合、それを補つたり、
酸化化のためのサプリメント
を充分に摂るなど積極的
な側面も持つ。

食事や運動を中心とした
生活習慣の改善、心のケア
などの予防医療的部分とホ
ルモン補充療法などにより、
抗加齢医療は相当の力を発
揮すると思われる。

さらには「これからも患者
眼科医」として全国的にも
有名だ。

村上院長の決意

村上院長は、高齢者特有

の眼疾患が増加し、逆に社
会的失明率は上昇してきて
いることから、眼と体の老
化を予防し、遅延させる抗
加齢医学は眼科医において
も必須の医学であると認識
するとともに、高齢患者へ
の福音を確信して、「認定専
門医」を取得したと言ふ。

また、高齢者の眼の成人
病である白内障・加齢黄斑
変性症(見たいところが見
えない病気)・緑内障・網膜
血管硬化症・糖尿病性網膜
症等による視覚障害など、
高齢者の数多くの眼の成人
病に対し、眼科医としての
眼の適切な治療に加え、全
身を診た上で全身状態の東
洋医学的改善、抗加齢をも
たらす生活習慣や栄養指導
等を併せて、高齢者の失明
を少しでも回避していきたく
い、と意欲を燃やす。

村上院長は前記3冠の認
定専門医のほか、日本医学
会健康スポーツ医でもある。
若い頃から日本の眼科病院
として最も歴史のある東京・
井上眼科病院の医局長に抜
擢され、秋篠宮妃紀子様や
百歳を超えても元氣で有名
だったきんさん、ぎんさん
など、多くの著名人の診療
も担当した。

その後、熊本市の西日本
病院の眼科部長として迎え
られ、平成8年7月、宇土市
に現在の「むらかみ眼科ク
リニック」を開院した。

特に、その堅実な眼科手
術は評価が高く、日本眼科
学会においては数多くの講
演を行い、常に「注目される
眼科医」として全国的にも

有名だ。